



☆国民と自衛隊とのかけ橋
☆会員と関係者との相互の親睦と情報交換

隊友よこはま南

一筆啓上特集号

2022年7月1日

公益社団法人隊友会
横浜南支部
責任者 田原昭彦

『不易流行』

横浜南支部長 田原 昭彦



【不易流行は、『広辞苑』によると「芭蕉の俳諧用語」不易は詩の基本である永遠性。流行はその時々々の新風の体。共に風雅の誠から出るものであるから、根元においては一つであるという」という意味です。不易は「かわらないこと。不変」という意味です。不易流行は、平たくいうと、変わらぬものと、変化してゆくものとがあるということです。変化してゆく中にも変わらないものがあるということです。】(円覚寺HP「管長のページ」今日の言葉から不易流行についての部分を抜粋)

一、先ず始めに、横浜南支部会員の皆様に「隊友よこはま南」(一筆啓上特集号)の紙面をお借りして、初めてのご挨拶をさせていただきます。私、田原昭彦は、本年(令和4年)4月16日の横浜南支部総会におきまして、五島浩司様の後を受け継ぎ支部長に就任をさせて頂きました。陸自幹部候補校78期(防大22期)、職種は普通科でした。奉職後は、平成23年4月から岡山県知事直轄危機管理課参事(常勤)として5年間、岡山県庁を定年退職後の平成28年5月から川崎市危機管理アドバイザー(非常勤)として5年間勤め、令和3年3月市役所での役割

を終えました。その直後から横浜南支部会員として支部活動のほんの少しのお手伝いをして参りましたが、ある時、そんな私に五島様から支部長に就いて欲しいとのご相談がありました。最初は、五島様よりも三つ年輩に当たると、私よりもっと若い方が良いのではないかと思ってお断りをするつもりでいました。その私が一転して支部長を承ることにしたのは、ウクライナへのロシアの侵攻が切っ掛けになりました。

1989年にベルリンの壁が崩壊し、1991年にはあのソ連が消滅して冷戦が終わりを告げました。あの当時、北方脅威を念頭に正月気分も覚めやらぬ1月4日から掩体構築訓練をした若い頃を思い出しながら、冷戦後の世界に何かしら多くのことを期待した私でしたが、その後の国際秩序は相変わらず不安定で世界各地で紛争が多発しました。日本の周辺では中国の台頭、北朝鮮の核開発等不透明で危険な状況が続きます。そんな中で力による現状変更を目指すロシア軍のウクライナ侵攻は、ロシアという国に対する安全保障上の存在を再認識すると共にどんな時代にも武力の役割は大きく、改めて通常戦力行使の敷居の低さや核の脅威を現実的なものとして感じるようになりました。4月にはキーウ郊外ブチャでのロシア軍による市民の虐殺、ジェノサイド(集団殺害)が明らかになりました。また、マリウポリ等からの人道回路の設置も完全な合意には至らず、設置していてもロシア軍の攻撃が続く民間人の退避は思うようには進まず、その多くが犠牲になりました。こうした中でもロシア軍の攻撃がもくろみ通りに行かないのは、ウクライナ軍の反撃と住民の抵抗、力による脅しには屈しないウクライナ国民の強さがあったからです。如何に独立を守る国民の気概が大切なのか分かります。日本の同盟国であるアメリカは日本をどこまで助けるのかとの自分自身への微かな問いかけをしながら、日本も空想的な平和観から真剣に目覚める

必要があるのではないかと感じていました。

こうした中で私は、この戦況を見つめれば見つめるほど自衛官OBである私自身に何ができるのかと問いかけるのです。そして、自然と今一度この国のお役に立ちたいと思うのです。否、そんな大上段に構えるのではなく、素直に地域に貢献したいと思うのです。しかしながら防衛組織を退職したオールド・ボーイに何ができるのか。何をすべきなのか。そんな時に私が改めて向き合ったのが、毎月、手を真つ黒にしながら会員の皆様に隊友新聞の発送をし続けている仲間の方々と隊友会活動でした。

私達が参加する隊友会には目的・目標があります。地域住民の防衛意識の高揚や予備自衛官を含む自衛隊が活動しやすいように住民の理解や環境を整え、また活動そのものを支援する。いわゆる防衛基盤の育成や自衛隊と国民の架け橋に。もちろん悲願である自衛隊の存在を憲法に明記することにも努力したいと思えます。しかしながら、これら隊友会活動の目的・目標の達成や各種事業を進めていくことは計画に書かれている言葉のように簡単に実現できないことも分かっています。それでも、思うのです。「この組織が組織であり続けることが大きな意義を持つ」と。

現代戦の特色であるハイブリット戦ではフエイクニュースが拡散し世論が誘導され、あらゆる分野での工作が知らず知らずのうちになされます。今や平時も有事も明確に区分できない中では、自衛隊OBを中心とする公益社団法人隊友会の活動が重要になってくるのではないかと思います。どんな事態が生起するか分からない状況で、防衛力の一員となった経験のある私達がOB組織を維持し活動を続けていくことは、それこそ平時・有事を問わずいづれかの時に何らかの形で役に立てるものと信じます。そのためには、横浜南支部は『不易』な組織でなければならないと考えるのです。

二、一般的に、組織が組織としてあり続けることには直面する課題が必ず存在します。横浜南支部も例外ではありません。支部には新規加入者の減少や中途退会する会員数の増加、支部活動の活性化等の課題があります。支部を運営する予算を思うようには確保できない積年の課題もあります。防災ボランティア活動は、大規模災害時への対応を踏まえ平時から実施することにもなっていますが、いくら横浜市と協定を結んでいたとしても隊友会員自身が被災する現場では上手くいかないこともあってしょう。また、そもそも自衛隊と国民との架け橋と言いつつも市民・住民に受け入れられている組織なのか。更に、コロナ禍で自衛隊との繋がりは途切れているのではないのか。これらの課題はある面では複雑で難題です。その難題に真っ直ぐに向き合いながら、先ずはこの横浜南支部を『不易』なこととして確りと維持することに果敢にチャレンジしていきたいと思ふのです。そして権限もなく自衛官でもない立場にありながら、いづれかの時に何らかの形でお役に立てると思うときに、横浜南支部としてだけではなく個人としても最悪の事態である武力攻撃災害等からの住民の退避、特に未来を担う子供達など所謂弱者の退避時に貢献できることはないのか。正しく被害を軽減する住民の退避に繋がる国民保護での避難要領において何ができるのかを考え、行動していくことも将来的には必要になっていくものと考えを巡らせています。そして、私達が何者でどの方向に向かうべきなのかの問いかけも、平和に慣れた私自身が目覚

めていくためには必要なのかも知れませんが。先ずは、先輩達から受け継いだ横浜南支部を維持し、その上で今以上に時代の流れに適合し活性化することに全力で取り組みたいと思います。それは新しい考えを取り入れた一歩になるのかも知れませんが。或いは発想だけの転換になるのかも知れませんが。それでもそれは正しく『流行』の実践です。しかしながら、それらは私一人でできるものではありません。多くの皆様との議論や意見交換を踏まえ同意を得たものである必要があります。また、現状を正しく捉える中でのやりがいがあり、楽しい活動であることも必要です。それらは、何よりも横浜南支部の会員皆様のご協力と笑顔なくしてはできないことです。ご経験のある大先輩、近い時代とともに歩んできた先輩・同期・同僚、そして、SNS世代も含め少なくとも前期シニアの私よりも若い方々、全ての皆様からの大所高所からのお導きを頂ければ、その歩みも確実・具体的なものになるのかと思います。どうか、会員の皆様に喜んで頂ける『流行』の歌を作り上げさせて頂ければと思つています。終わりに、何とぞ、五島前支部長と同様に変わらぬご指導ご鞭撻ご協力を賜らんことを心からお願ひ申し上げます。



新旧支部長

隊友会 横浜南支部

令和4年度隊友会 横浜南支部総会開催



4月16日(土) ウィリング横浜にて

支部総会における議事等要旨

本年度の支部総会は、本年3月の「隊友よこはま南」第46号でご案内の通り、4月16日(土)、ウィリング横浜で予定どおり実施しました。議案の、令和4年度横浜南支部運営計画(案)、支部役員(案)は、いづれも異議なく、案のとおり決定いたしました。しかし、行

事予定表(案)につきまして、毎月の「隊友」発送を隔月(奇数月)にするという大きい変更がありました。これは、年度末の県理事役会における県本部からの緊急動議によるもので、県本部の財政状況に鑑み、これまで県本部が負担していた隊友紙の購入費と発送費のいずれも半分を支部で負担することとなったためです。この費用を捻出すべく、緊急の処置として、「隊友」を隔月発送とすることと致しました。また、これに伴い、機関紙「隊友よこはま南」の発送もこれに合わせることに致しました。会員の皆様にはご不便をおかけしますが、何卒ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

今回の総会を機に、支部長が交代となりました。また、長年理事役として支部の活動に積極的に貢献して下さいました野口淳理事役が米寿を機に退任されることとなりました。この場をお借りして、感謝の意を表したいと思ひます。

コロナ禍の影響が今も続き、今後の活動が見通せない中ではありますが、より早い終息と、会員の皆様のご健康を心からお祈いたします。

支部総会に参加の特別会員等

- 自民党副総裁特別補佐 前衆議院議員 松本 純
- 市会議員 田野井 一雄
- 市会議員 松本 研

衆議院議員 菅義偉 秘書

浅田 侑吾

衆議院議員 さかい学 秘書

山藤 卓人

参議院議員 島村大 秘書

真田 峯妃

神奈川県議会議員 松田良昭 秘書

小山 和則

神奈川県議会議員 あらい絹世 秘書

堀川 清志

衆議院議員 中西 けんじ

(祝電)

神奈川県隊友会横浜南支部令和4年度定期総会が開催されますことを心からお慶び申し上げます。貴支部の今後益々のご発展と皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

神奈川県議会議員 新堀 史明

(祝電)

公益社団法人隊友会横浜南支部令和4年度定期総会のご開催を心よりお祝い申し上げます。地域市民と自衛隊の架け橋として、地域社会の貢献にご尽力されている皆様の活動に心より敬意を表すとともに、貴会ますますのご発展をお祈り申し上げます。

横浜市議会議員 遊佐 大輔

(祝電)

令和4年度支部総会のご開催、心よりお慶び申し上げます。日頃よりご尽力をいただき敬意を表します。今後益々のご発展と皆様方のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。

隊友会 横浜南支部 総会出席等通知において「返信はがき」に一筆添えて下さった方々です。ここに紹介させていただきます。
— 順不同・敬称略 —

特別会員

衆議院議員 菅 義偉

自衛隊の皆様には総理在任中に大規模ワクチン接種に対し大変なご尽力を賜りましたことに感謝申し上げます。

衆議院議員 中西 けんじ

隊友会横浜南支部総会の開催をお慶び申し上げます。ロシアのウクライナ侵略は「自分の国を自分で守る」ことの重要性を再認識させました。人心が不安定となる中、会員の皆様の益々のご活躍に期待するとともに、ご家族の皆様のご健勝を祈念致します。

神奈川県議会議員 新堀 史明

コロナ禍における難しい会の運営にご尽力なされていること、心より感謝申し上げます。総会当日は、欠席させて頂きますが、支部の方針にのっとり、今後とも微力ながら自衛隊の皆様活動を支援してまいります。

自民党栄区連合支部長 角田 宏子

機関紙お届けありがとうございます。

す。コロナ禍に総会ご準備、ご配慮に感謝申し上げます。上大岡募集相談所の役員としての活動を通じ、国につきすことの使命を仕事とする現代の大人の責任で若者にあたりたいと考えています。

横浜司会議員 輿石 且子

五島支部長様の「雨垂れ石を穿つ」を拝読し深く共感いたしました。一人一人の一粒一粒が雨垂れとなり、信頼の基盤「橋脚」となり、平和と安寧な社会をきずくのですね。私もその心で日々を送りたいと存じます。素晴らしいメッセージをありがとうございます。

正会員

〔西区〕

浦川 徹郎 海 76歳

戦争終結・コロナ終息を心より願っております。月々土、元気で仕事しております。

〔中区〕

大内 敏彦 海 65歳

昨年、防衛省職員(非常勤)に採用され、この春で二年目となります。週5日の通勤、勤務は少々身体にこたえますが、総監部・経理課での仕事は誠に充実しており、楽しい日々を送っています。現役の隊員さんに交じって、まだまだ頑張って働くつもりです。

〔南区〕

葛城 信次 陸 74歳

支部の皆様にはお元気にお過ごしのことと拝察いたします。心掛けとしては、一日20回以上笑って、ナチュラルキラー細胞の増加に努め、コロナの収束とウクライナ問題が鎮まると、世界の安心安全が到来するよう祈りつつ体力維持に努めています！

新聞 仁司 海 66歳

コロナの蔓延、ロシアのウクライナ侵攻等、世界情勢、経済活動の急激な変化の中、今後どの様な形態で安定するのか、想像できない状況になってきています。今後、隊友会活動も状況の変化に敏感に対応することが必要になって来るかと思っています。

高橋 清 陸 88歳

横浜南支部の益々のご発展をお祈りしております。ウクライナに対するロシアの理不尽な行為に対しいきどおりを覚え、国防の大事を改めて感じています。

原田 昌一 陸 64歳

ロシアによるウクライナ侵略を目の当たりにして、戦闘に参加しない米国の姿に愕然とした。將に核の抑止力効果を見せつけられた。翻って我が国は権威主義の核保有3ヶ国に囲まれ、如何ともし難い地政学リスクを抱えている。我が国は世界唯一の被爆国であるだけに核の抑止力効果は身を持

って体験している。憲法改正は元より、核武装を始めとする防衛力の大幅増強は急務である。言論の自由が保障されているわが国で核武装議論のタブーがあつてはならない。

藤田 泰夫 海 76歳

狂ったプーチンの暴政、習近平の尖閣、台湾の占領宣言等に、日々、苛立つ暇老人となりましたが、嬉しいことがあります。息子が東北の田舎から、この4月、佐世保に転勤、これですと楽しみが見つかりました。

村田 和美 陸 71歳

定年退官して16年、ありがたいことに今も市内の防衛産業でエンジニアとして働いています。南支部総会に一度は出席して、皆様と懇親を深めたいと思っておりますが、今回も出張のため叶いませんでした。役員の皆様のご尽力に感謝し、会の発展を祈念しております。

吉田 巖 海 63歳

いつまでコロナ禍が続くのでしょうか。そろそろ、コロナに対してどう取扱うか考える時期だと思えます。夜の飲食、最後にしたのはいつだったか忘れました。

【港南区】

安藤 智一 陸 67歳

コロナ禍この時期にロシア武力介入。緊張感のない平和ボケした日本。

国防の重要性がわかつていない国会議員、テレビのコメンテーター。日本の未来はどうなるのか???!! 隊友会の活動がんばって、がんばって下さい。宜しく。

【磯子区】

大迫 義谷 海 64歳

お世話になります、今回の五島支部長の「雨垂れ石を穿つ」の内容には感銘を受け、自らも反省しました。とかく、良いことばかり書くようなOB達の中で、「前日の私の軽率な行動とはまさに真逆の行動でした。」について、私も自省いたしました。

川守田 健雄 海 80歳

今迄如何に能天気だったか。ロシアのウクライナ侵略が現実だ。一刻も早く憲法改正し、普通常識の国になってほしい。

門倉 高明 陸 81歳

ロシアによるウクライナ侵攻に国連安全保障理事会が機能してないことなどを踏まえ、日本の技術力と日米同盟を強化する必要がある。「敵基地攻撃能力」保有こそ最たる抑止力となる。今こそ自衛隊の根拠規定明記する憲法改正が必要だ!!

【金沢区】

井出 正 陸 62歳

現在、株式会社総合防災ソリューション

ヨンにてコンサル業務に携わっております。令和3年度は内閣府の大規模災害時における自衛隊艦艇等を活用した災害医療活動や九都県市合同防災訓練で、神奈川県はじめ各地域の隊友会の皆様方のご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。令和4年度も引き続き宜しくお願い申し上げます。

大津 雅紀 海 65歳

コロナも2年以上が過ぎたのに、相変わらずのいたちごっこですね。お陰様で罹患もせず健康に過ごせてます。

小吹 優 空 74歳

桜木町駅前コレットマールのオフィス棟で人間ドック・健康診断をやっています。お気軽にお越し下さい。

竹中 信 海 73歳

ウクライナの郷土(地域)防衛隊、我国にも設立する必要があると思えます。予備自衛官でないOBが活躍できる場です。政策提言で検討すべきと思います。

難波 陽 海 79歳

役員の方々のご尽力、感謝申し上げます。(申し訳ないです)。“日本人の精神”“日本人魂”を思うに、ウクライナ国民に教えられるところ大と感ずる一人です。

濱野 靖 陸 80歳

今年、後期高齢者小学校を卒業、中

学校1年生に。これからは、勉強(TV、PC)より遊ぶこと(散歩等の運動)を優先。：まずは元気第一! :

渡邊 孟 海 86歳

プーチンが牙をむいた。国連の安全保障理事国が世界の安全をおびやかす存在になるとは? 日本も早く憲法を改正して準備をととのえないと大変な事になるという証明になったことは事実のようだ。自衛隊ガンバレ!!

【保土ヶ谷区】

海野 修作 海 82歳

自力本願の活動を検討されてはいかがでしょうか! (財源確保の方法等)

【栄区】

川枝 康晃 海 77歳

理不尽なロシアのウクライナへの侵攻に憤りつつ、満開のソメイヨシノの下、先日の誕生日に娘にプレゼントしてもらったウォーキングシューズを履いて7千歩散歩をしています。

田村 豊 海 96歳

四捨五入すれば100才という年になりました。年の割には元気にしておりまます。元気な子に産んでくれた親に感謝です。旅行に、囲碁にと楽しくしておりますが、最近では囲碁仲間

がすっかり居なくなり寂しい限りです。今後ともよろしくお願ひします。

野口 淳海 87歳

今年米寿を迎え、横浜南支部の理事を辞することにしました。

17〜8年間に及び理事(会計監査、会計を含む)をさせて頂き、この間6指を屈する支部長とご一緒しました。老兵は静かに消えますが、今後南支部の会勢の発展を心より願っています。有難うございました。

【泉区】

洞澤 佳廣 陸 78歳

ロシアのウクライナ侵攻は日本国の防衛の在り方を考えさせる大きな布石となった。

- ① 憲法を全面改正し新憲法の制定
- ② 自衛隊の戦力の見直し。2ないし3正面作戦能力の検討
- ③ 駐屯地、基地の防衛の在り方
- ④ 作戦時の日米間の指揮系統の明確化等々、早期に検討すべきだと思ふしだい。

以上の他、次の方々から横浜南支部の盛会と健勝を祈念、会の活動と情報の配布に感謝等のお言葉頂いています。

- 浅野 誠二 戸塚区
- 石角 義成 金沢区
- 植松 則彦 磯子区
- 宇渡 正彦 南区

| | |
|--------|--------|
| 大沼 肇 | 南区 |
| 小野 清一 | 戸塚区 |
| 勝見 紀雄 | 横須賀市 |
| 金崎 實夫 | 港南区 |
| 金子 篤英 | 金沢区 |
| 神田 真治 | 港南区 |
| 功刀 正文 | 金沢区 |
| 香田 洋二 | 栄区 |
| 小林 清 | 港南区 |
| 佐々木 輝幸 | 横須賀市 |
| 鈴木 宏平 | 栄区 |
| 竹迫 允博 | 戸塚区 |
| 田所 勝 | 西区 |
| 田内 浩 | 金沢区 |
| 塚田 真司 | 西区 |
| 坪屋 成壮 | 金沢区 |
| 長久 雄三 | 港南区 |
| 中森 康喜 | 金沢区 |
| 乳井 三治 | 金沢区 |
| 長谷川 洋 | 金沢区 |
| 広瀬 誠 | 金沢区 |
| 廣田 浩己 | 鶴見区 |
| 本田 誠 | 戸塚区 |
| 三浦 昌伸 | 南区 |
| 三石 眞通 | 東京都板橋区 |
| 峰 圭三 | 金沢区 |
| 森 幸治 | 中区 |
| 山内 鐵男 | 戸塚区 |
| 山口 治彦 | 栄区 |
| 山長 眞一 | 戸塚区 |
| 山脇 修 | 金沢区 |

押さば押せ 引かば押せ

海自OB(事) 大沼 肇

大相撲春場所(大阪)は、新関脇若隆景が千秋楽の優勝決定戦で高安を破り賜杯を手にした。お目出とう。個人的には、高安が初土俵から17年、101場所目での悲願の初優勝を期待していたがならず惜しかった。高安は14日目の正代戦といい、この幕内優勝決定戦といい土俵際に追いつめながら硬

くなつたのか、今一步での敗戦は無念だったろう。相手力士の気迫と最後まで勝負を諦めない執念が勝ちを呼びこんだのかも知れない。

さて、この場所を振り返ってみる時あの引退した白鵬の無様な品格のない勝手気儘なケンカ相撲(張り手は格下相手にやるのは、邪道といわれている。また、プロレスで言う、エルボー)のかち上げは本来は相手の胸に決めるのに白鵬は顔に当てていた。横綱相撲といえない姑息な手を使つての勝ち方をしていた。)がないことは大変に結構なことで、喜んで楽しくTVの前の栈敷席(茶菓付き)に陣取り期待して観戦したのだが、豈図らんや。十両の取り口には目立ったものはなかったが、格上の幕内に入つてからは、跳んだり、ハネたりの相撲の外、特に印象に残つたのは突き差しがこうじて「ノド輪攻め」の取り口が多く見受けられ、またまた見苦しい相撲となつてしまった。多くの客は拍手をしていたが私はついていけなかった。特に関脇阿炎は、初場所もそうでしたが、突いて突いてのノド輪攻めには、観ている息苦しくなるような感じになつてしまった。あの大きな指先で息の根を止められては、たまつたものではない。相撲をとれと言いたくなつた。この阿炎に準じたかの様に大栄翔にもノド輪攻めが多かつたのは感心しない。相撲好きな子供たちや学生たちに変に波及しなければと案じてしまった。皆さんもこういう観方があるのかと夏場所(両国・国技館)を注目

神奈川地本、日々奮闘中!!!

自衛隊神奈川地方協力本部長

平井 克英

されて下さい。大相撲らしく力と力を出し合つてのガチンコ相撲を期待したいものです。一相撲ファンとして苦言を申しましたが、何卒ご寛容の程を。

隊友会横浜南支部の皆様、そして支部機関紙をご愛読の皆様、平素より自衛隊神奈川地方協力本部に対する多大なご支援をいただきありがとうございます。神奈川地方協力本部は令和3年度も神奈川出身の多くの有為な若者を入隊入校させることができました。援護・予備自衛官業務等、各種業務も限られた戦力で厳しい状況の中、最高のパフォーマンスを發揮しました。令和2年度は防衛大臣から1級賞状を受賞しましたが、令和3年度もそれに匹敵する成果を収め、全国第2位の人口を誇る神奈川県に所在する地本の責任を果たすとともに神奈川地本の勢いを示したところです。これは、各協力団体の皆様の強力なご支援を得て、神奈川地本協力本部の隊員一人一人による地道な努力の継続がまさに結実したものであると考えています。

さて、既に令和4年度の神奈川地本の戦いは始まっています。これまでも言われているとおり我が国の少子化、高学歴化の波は、確実に新隊員の募集

や予備自衛官の確保の厳しさに拍車をかけるでしょう。さらにロシアによるウクライナ侵攻や北朝鮮の度重なるミサイル発射など、我が国の安全保障環境は国民の目に見える形で不透明さを増しており、自衛官は危険な職業であると志願を忌避する風潮が生まれませんとも限りません。しかしながら、国防の大切さはウクライナの例を見るまでもなく、日本が日本であり続けるために、いかに危険でも誰かがやらなければならぬものです。我々神奈川地方協力本部は、自らの国は自らの手で守ると強い決意をもった有為な若者を募ることによって、また、自衛隊での豊富な経験を有する人材を有効に社会に還元することによって、さらには補充防衛力としての予備自衛官等の確実な確保を図ることによって、自衛隊の人的基盤の強化に貢献し、自衛隊、そして我が国の未来につなげる崇高な業務をコツコツと継続していく所存です。

神奈川地本は今、勢いにのっています。しかしながら絶頂期と慢心していただえずに斜陽の時が訪れるのが世の常です。そのため、一昨年より昨年、昨年より今年へと「さらなる成長」を図るべく、意識の成長、業務の成長、結果の成長という3つの成長を掲げ、先日、令和4年度の出陣式を執り行い決起したところです。引き続き、神奈川地本は与えられた使命を完遂するために努力してまいりますので、今年度の神奈川地本の活動を温かく見守っていただければと思います。結びになり

ましたが、皆様方のご健勝を祈念いたしますとともに神奈川地本に対する引き続きのご厚誼をお願いします。



私のもう一つの
東京2020オリンピック

陸自OB 田原昭彦

前号から続く

男子走り高跳び。二つの金メダル。決勝を戦ったカタルのバルシム選

手とイタリアのタンベリ選手が大会側と協議の上、そろって金メダルに輝きました。両選手とも2メートル39センチをともに失敗しましたが、2メートル37センチまで一度も失敗がなくなつたと同じ成績で並んでいました。大会側は決着まで一回ずつ跳躍する「ジャンプオフ」を提案しましたが、バルシム選手が「金メダルを二つ貰えないか」と提案し、大会側がこれを受け入れたのでした。

同じ種目でメダルを分け合う出来事では忘れないことがあります。1936年（昭和11年）ベルリンオリンピックの棒高跳び決勝です。この時、日本の西田修平選手と大江季雄選手の記録は共に4メートル35センチでしたが、体力は限界に近く、審判との話し合いの結果、競技は打ち切られました。ルール上は共に2位になるはずでしたが、発表された順位は西田選手が2位で大江選手が3位でした。決定された理由は定かではなかったようですが、納得できなかつた西田選手は表彰台では銀メダルを大江選手に譲り、自らは銅メダルを掛けました。帰国後二人は話し合い、銀メダルと銅メダルを半分ずつにして一つのメダルにしました。

このメダルは「友情のメダル」と呼ばれています。この時の大江選手は次回開催予定の1940年（昭和15年）東京オリンピックの期待の星でしたが、東京オリンピックは日中戦争のため開かれることはありませんでした。その後の大江選手に待

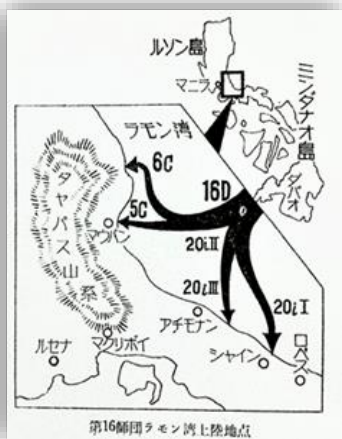
ち構えていたのは、戦争という高い高いバーでした。1939年（昭和14年）、陸軍に召集された大江選手は、歩兵第20連隊第5中隊の少尉に進みます。当時この連隊は、京都府福知山市に駐屯しており、現在、そこには、陸上自衛隊第7普通科連隊が駐屯しています。

1978年（昭和53年）9月、幹部候補生学校を卒業した私は、普通科職種指定を受け、隊付き教育を受けるために第7普通科連隊に赴任し、半年後には三等陸尉に任官します。ある時、中隊長から旧陸軍歩兵第20連隊史を題材にした隊員への精神教育を命ぜられ、連隊資料館に向かいます。そこで、連隊広報の准尉から「防人の詩」（京都新聞社）という本を頂き、読みふけり、大江選手・大江少尉と出会います。



本の裏表紙の内側には、本を読み終えたのは1978年（昭和53年）12月15日と記がありました。それから遡ること37年前の1941年（昭和16年）12月、日米開戦の初め、遙か南方ルソン島ラモン湾の北岸マウバン

に向かっていた日本陸軍第20歩兵連隊第2大隊は、上陸直後予想を越える抵抗に遭い甚大な被害を受けました。このマウバン正面海岸への上陸作戦の陣頭に立っていたのが大江少尉でした。上陸作戦は1941年12月27日の未明、暗闇を利用して行われましたが、大江少尉の所属する第5中隊はマウバンの敵陣地の正面に上陸し、そこに陣地防御している米比連合軍から猛烈な火力を受けることになりました。このため上陸用舟艇から飛び降り、海辺にせまるまでの海中にいた第5中隊の180名の多くは波間に倒れ、ようやく砂浜に這い上がった者も砂丘上に倒れました。いや倒れていたというよりもなぎ倒されていました。180名の中隊は、戦闘に耐える将兵が20余人という壊滅的な被害を出すことになりました。この中にあのメダリストがいたのです。



第5中隊の先陣となった大江少尉は、舟艇から真っ先に飛び降りた海中を砂丘に向けて進んでいましたが腹

部を銃弾が貫通します。それでも傷つくと部下の後送を指示し、自らも収容されましたが顔面からは血の気は失せ、福知山の町を歩くと女学生が思わず頬を染めたあの端正なマスクは白色に近い状態となっていたそうです。処置を受けるために収容された輸送船には、運命なのか実兄の大江泰臣軍医中尉がいました。上官の軍医から直ちに手術を命ぜられた大江軍医中尉はこれを拒否したそうです。それは強い意志の表示ではなく、えん曲な拒否であったといわれます。上官も大江中尉も全てが手遅れであることを暗黙のうちに了解していたからでした。大江少尉の腹部は、大腸がはみ出し、その腸壁にはラモン湾の砂丘の砂が付着したままであったといえます。この旧陸軍第20連隊史を題材にした精神教育の中で、私は、戦争の悲惨さと戦争で亡くなられた方々の犠牲の上に今の平和があり、その平和の尊さを陸士、陸曹に語りかけたのだと思います。その後、私は平和を噛みしめながら、幹部自衛官としての道を34年余り歩み続けることになりました。

その後のあの「友情のメダル」、西田選手のメダルは和歌山・紀三井寺陸上競技場を経て母校・早稲田大学スポーツ博物館に、大江選手のメダルは秩父宮記念スポーツ博物館にそれぞれ収蔵されていると聞きます。

東京2020大会オリンピック・パラリンピックのビジョンには3つの基本コンセプトが掲げられていました。「全員が自己ベスト」、「未来への継承」と並んで示されていたのが「多様性と調和」

です。これは、人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障害の有無など、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩するのであり、東京2020大会には世界中の人々が「多様性と調和」の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機となるような大会とする、という想いが込められていました。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の一連の問題で、私も改めて認識し直さなければならぬこともありましたが、「多様性と調和」が実現できれば、世界に紛争は無くなり、誰もが幸せに暮らせると思います。しかし現実には、まだまだほど遠い世界でしょう。「多様性と調和」についての重要性和共に「平和の祭典」であるこの東京2020オリンピック・ピックの中に、改めて国家防衛の任に就いた私自身の原点の一端を見つけることができました。それは、私のもう一つの東京2020オリンピックといえるものであり、そこには、田谷幸吉と大江季雄という二人のオリンピックアン、メダリストがいたのでした。

終わりにになりましたが、大会期間の終始を通じて、極めて暑い中にもかかわらず、防衛省東京2020オリンピック・パラリンピック支援団の陸・海・空自衛隊員による凜とした活動に誇りを感じると共に国民の一人として、自衛官OBの一人として、心から感謝を申し上げたいと思います。

私の本棚

海自OB 渡邊 智弘

私は15歳で海上自衛隊生徒として江田島に行った。最初の本棚は個人用のロッカーの最上段。スペースに制限があるので、置けなくなると岡山の実家に送っていた。19歳で部隊勤務となり、横須賀で山腹の一軒家を借りて、ゆったりとしたスペースの中で大きな本棚を買った。この時、百科事典が欲しくてブリタニカ国際百科事典を購入した。これだけで、本棚の半分以上を占領していた。百科事典にはリンク先があり、美しい写真も多く掲載されていて、自分の興味を引く世界にどんどん飛んでいった。これは小説などとは全く別の本の楽しみ方であった。しかし、何年もしない内に潜水艦で出港中にその家が火災になり、全てが灰になってしまった。隣家からの類焼で、人も亡くなっており、言葉がなかった。入港して焼け跡を確認したところ、見事に焼けて家の柱ですらほとんど残っていないかった。その中で、炭になった百科事典を開いてみると、中のページはピカピカで全く綺麗なままだった。それ以降、これに懲りたせいか、また勤務の関係もあつてか、本棚らしい本棚を買った覚えがない。しかし、今、自分の部屋を見渡してみると、容量だけを見ても、自分の持ち物の半分以上を本が占めて

いる。

前置きが長くなってしまったが、私
が一番印象に残っている作家が三島
由紀夫だ。15歳当時、新潮文庫からオ
レンジ色の背表紙の三島の小説が
次々と発刊されていて、それを、P X
の本屋さんに頼んでおいて、食べるよ
うに読んだ。三島に惹かれたのは、自
分とは別世界、感覚の違い、そして、日
本語の奥行の深さ（こんな日本語があ
るのか）といった驚きを常に感じてい
たからだと思う。

しかし、思ってもいないことが起き
た。私が16歳の時、1970年11月25
日、三島が自衛隊に檄を飛ばして市谷
駐屯地で自決したのだ。三島が自衛隊
に体験入隊などをしていたことは知
っていたし、自衛隊の良き理解者と思
っていただけに、そして自分が夢中にな
っていた作家であったが故にその
衝撃は大きかった。

何故、自決したのかは、その後もず
つと尾を引くテーマとなった。そし
て、そのテーマを時々思い起こしつ
つ既に半世紀が経ってしまった。この状
況にある変化を与えたのが隊友会であ
った。退官後の隊友会活動の中で、
事件に立ち会った人々の話を聞くこ
とができた。中には、最後の乱闘の中
で、あの「関の孫六」で刀傷を負った
という人の話も伺った。今では、自分
なりに結論を出している。やはり、あ
れは三島の美学だったのだろうと。肉
体の衰え、憲法改正の為のクーデター
という目標の喪失、縦の会の今後な
ど、それらの要因が、この時期、この

場所に収束したのだと。

私は、新潮文庫から出た三島の本
は、全て読んだと思っている。その
中で、唯一今も手元に残っているの
が「葉隠入門」である。この本は、
三島が自決の三年前に書いたもので
ある。この本を読んだときに、三島
の自決が何故かすとんと腑に落ちた
気がした。私は、日本が特に明治以
降他文化の浸食を受け、日本本来の
文化が道徳的精神的に荒廃し、この
共同体が崩壊に向かっていると感じ
ている。三島は、それを早くから肌
で感じ、将来の日本社会を予見し、
自らの行動をとおして、警鐘をなら
すことを自らの生と考えたのである
う。急激な変化を見せる21世紀の初
頭、人々が日本、そして全人類の進
むべき道を模索する中、しっかりと
現実とあるべき姿を見極めて歩みた
いものである。

会費等納入のお願い

会員皆様には日頃から横浜南支部
の活動に対しご理解ご協力を賜り厚
く御礼申し上げます。皆様からの年
会費と寄付金が横浜南支部を運営す
る上での主要な財源となっております。

今回送付します横浜南支部の機関
紙「隊友よこはま南」に「払込取扱
票」を同封いたしますので、会員皆
様に年会費納入とご寄付を賜りたく
よろしくお願い申し上げます。昨年

度の会費納入状況は、特別会員21
31人67.7%（前年比+3.2pt）、年会員
91\135人67.4%（前年比-4.4pt）でし
た。今後の横浜南支部の円滑な運営の
ためにも年会費納入の促進が求めら
れます。また、ご寄付は72名（総額
224,300円）の方のご賛同を賜
りました。今年のご寄付につきましては
「横浜南支部機関紙運営資金」の他
に神奈川県自衛隊音楽祭り開催予定に
伴います「新隊員激励神奈川県音楽祭
助金」もごさいますのでよろしくお願
いいたします。

なお、6月に一部終身会員の方に神
奈川隊友会からご寄付のお願いが
届いているかと思われませんが、横浜南
支部のご寄付のお願いとは別である
ことをご承知おきください。

細部につきましては、同封いたしま
す「年会費納入とご寄付のお願いにつ
いて」をご覧ください。

神奈川地本便り

隊友会横浜南支部の皆様並びに「隊
友よこはま南」をご愛読の皆様におか
れましては、平素より自衛隊神奈川地
方協力本部に対するご支援ご協力を
賜り、誠にありがとうございます。

夏も盛りを迎えようとしているな
か、自衛官等の採用試験も本格化して
まいりました。試験会場で少し緊張し
た面持ちの受験生や直前まで参考書
を手に必死に勉強する受験生を見ると、
その直向きな姿勢に励まされると

ともに、身の引き締まる思いがします。
さて、今回は自衛官等採用試験につ
いてご案内させていただきます。本誌
をご愛読の皆様、ご親族、お知り合い
の方で自衛隊に興味・関心をお持ちの
方がいらつしやいましたら、ぜひ神奈
川地本又は最寄りの出張所等にご連絡
ください。

また、神奈川地本では公式ホームペ
ージ、ツイッター、インスタグラムに
て募集情報やイベント情報など、日々
さまざまな情報を発信しております。
一度ご覧いただくとともに、お知り合
いの方にご紹介いただければ幸いです。
どうかよろしくお願ひ致します。

自衛官等採用試験の受付期間 (R4. 6. 15 現在)

- ・ 第2回予備自衛官補（一般）：6/1~9/16
- ・ 第2回一般曹候補生：7/1~9/5
- ・ 航空学生：7/1~9/8
- ・ 防衛医科大学校 看護学科学学生：7/1~10/5
- ・ 防衛医科大学校 医学科学学生：7/1~10/12
- ・ 防衛大学校学生（一般）：7/1~10/26
- ・ 自衛官候補生：年間を通して受付中

神奈川地方協力本部 SNS



Instagram



Twitter



ホームページ

編集後記

激動の時代、新たな発想が必要とされ
ています。会員皆様のご意見を!!

編集子

